

令和元年 5 月の解説（週間天気予報）

【5 月の天候状況】

北日本から西日本にかけては、天気は数日の周期で変わりましたが、高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くありました。このため、北日本、東日本、西日本では、月間日照時間がかなり多く、月降水量は少ない地方が多くなりました。特に、西日本の日本海側では月降水量がかなり少なく、1946 年の統計開始以来 5 月として 1 位の少雨となりました。

低気圧は沿海州からサハリン付近を通ることが多く、日本の東で高気圧が強かったため、北日本から西日本にかけては暖かい空気が入りやすくなっていました。また、高気圧に覆われて晴れた日が多かったことから、気温はかなり高くなりました。特に、北日本の月平均気温は平年差が +2.7℃となり、1946 年の統計開始以来 5 月として 1 位の高温となりました。

上旬は、北日本から西日本にかけては高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くありました。このため、日照時間は北日本、東日本、西日本で多く、降水量は東日本、西日本で少なくなりました。また、低気圧はサハリンから千島近海を通過することが多く、北日本は西から暖かい空気が入りやすかったため、平均気温は高くなりました。一方、沖縄・奄美では、湿った空気や前線の影響で曇りや雨の日が多くありました。

中旬は、日本の東で高気圧の勢力が強く、北日本、東日本、西日本に暖かい空気が入りやすかったため、平均気温はかなり高くなりました。また、高気圧に覆われやすかったため、北日本、東日本、西日本の日本海側では日照時間が多く、降水量は少なくなりました。一方、西日本の太平洋側や沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすかったために降水量が多くなり、13 日は与那国島で大雨となったほか、18 日には屋久島でも大雨となりました。

下旬は、全国的に高気圧に覆われやすく、日照時間が多くなりました。また、低気圧は沿海州付近で発達することが多く、北日本から西日本にかけて暖かい空気が流れ込みやすかったことや、高気圧に覆われて晴れたことから、気温はかなり高くなりました。特に、北日本は、旬平均気温が平年差 +4.3℃と、1961 年の統計開始以来、5 月下旬として 1 位の高温となりました。

【5 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目の平均)は、例年値^(注)よりも 7 ポイント高い 79%でした。地方別の適中率では、九州南部地方、沖縄地方以外の各地方で例年値を上回り、北海道地方、関東甲信地方、北陸地方、近畿地方、中国地方では例年値よりも 11 ポイント以上高くなりました。

最高気温の予報誤差(2～7 日目の平均)は、全国平均で例年値よりも 0.4℃小さい 2.4℃で、四国地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目の平均)は、全国平均で例年値よりも 0.1℃小さい 1.8℃で、九州北部地方以外の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬～下旬に、九州地方から東北地方にかけて梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農作物の生育に影響が及ぶことがあります。2 週間気温予報や早期天候情報を活用するほか、週間予報で曇りや雨の日が予想され、平年よりも気温の低い日が続く場合には、早めの対策を取るなどしてください。